

Player 別冊
THE GUITAR 11
~ Premium Guitar Collection ~

企画のご案内



2010年6月21日発売
株式会社プレイヤー・コーポレーション

別冊『THE GUITAR 11』発刊のご案内 ～Premium Guitar Collection～

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

株式会社プレイヤー・コーポレーションでは、長年恒例となっております別冊企画“ザ・ギター・シリーズ”の新刊を予定しております。今回は、シリーズ第11巻にあたる『ザ・ギター 11』を、2010年6月21日(予定)に発売させていただくはこびとなりましたので、ここにご案内申し上げます。

前巻『ザ・ギター10』は、2007年秋に発刊され大変幅広いギター・ユーザーに好評を博しました。今回は、前巻から約2年半ぶりの続刊となります。すでにご承知のように、近年の楽器市場は世界的な不況、不安定な日本経済の影響を受け、極めて厳しい状況です。自動車産業や外食産業の例を出すまでもなく、現在の楽器産業はかつてない大きな打撃を受けております。各販売店における売上の不振はもとより、ユーザーの楽器店離れ、少子化問題など、いっこうに明るい兆しが見えません。また、数年前までは高騰していたヴィンテージ・ギター市場も急速な価格の下落が目立ち、ユーザーはその動向を見守っています。

しかしながら、今年1月にアナハイムで行われました「NAMM SHOW 2010」におきましては、昨年を上回る出展者数と来場者数が記録され、楽器シーンに対する期待感が高まっていることも事実です。また、バンド・ブームといった現象は見られませんが、楽器ユーザーの嗜好は根強く、厳しい経済状況を横目に静かにタイミングを計っている状況だと言えるでしょう。

『プレイヤー』誌は、そんなギター・シーンが少しでも活性化するように誌面で様々な企画を展開し、ギター・ユーザーを刺激してまいりました。ここでご紹介いたします『ザ・ギター』シリーズは、本誌の40年を越える長い歴史の中で読者に最も支持されている「ザ・ギター」コーナーを中心に、様々なギター／ベース、その周辺機器などの話題をギターユーザーに提供する“完全保存版”の別冊シリーズです。ギタリストの最も気になる話題を本誌ならではの詳しい解説と美しい写真とでお届けする内容で、極めて保存性の高いギター・バイブルとして好評を博しております。

この別冊『ザ・ギター 11』の発刊に際しまして、制作の主旨をよくご理解頂き、取材・広告出稿等に関してご協力いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

敬具

株式会社プレイヤー・コーポレーション

田中 稔

◆主な掲載予定内容◆

- 「ザ・ギター」総集編
- 撮り下ろし「ザ・ギター」
- The History of ERIC CLAPTON's Guitars 50
- Premium Guitar Collection
- Made in Japan File
- THE PRESIDENTS
- Vintage Guitar Collection
- Others

編集内容1 THE GUITAR

◆THE GUITAR 総集編◆

2008年1月号以降の『Player』「ザ・ギター」の総集編です。

《掲載予定アーティスト／ギタリスト》

■2008年			■2009年			■2010年		
1月号	HANOI ROCKS	ANDY McCOY CONNY BLOOM ANDY"A.C."CHRISTELL	1月号	S.M.V.	STANLEY CLARKE MARCUS MILLER VICTOR WOOTEN	1月号	RY COODER & NICK LOWE	RY COODER NICK LOWE
2月号	THE DEREK TRUCKS BAND	DEREK TRUCKS TODO SMALLIE	2月号	ULI JON ROTH with MARTY FRIEDMAN	ULI JON ROTH NIKLAS TURMANN LARS LEHMANN MARTY FRIEDMAN	2月号	NICKELBACK	CHAD KROGER RYAN PEAKE MIKE KROGER
3月号	ERIK MONGRAIN		3月号	JACK BRUCE & VERNON REID	JACK BRUCE VERNON REID	3月号	ROB ZOMBIE	JOHN 5 PIGGY D
4月号	BON JOVI	RICHIE SAMBORA JON BON JOVI BOBBY BANDIERA HUGH McDONALD	5月号	FEEDER	GRANT NICHOLAS TAKA HIROSE DEAN TIDEY	4月号	SONATA ARCTICA	ELIAS VILJANEN MARKO PAASIKOSKI
5月号	JEFF LANG		6月号	HANOI ROCKS	ANDY McCOY CONNY BLOOM ANDY"A.C."CHRISTELL	5月号	JOHN BUTLER TRIO	JOHN BUTLER CHANNON BIRCHALL
5月号	ALLAN HOLDSWORTH	ALLAN HOLDSWORTH JIMMY JONHSON	7月号	DRAGONFORCE	HERMAN LI SAM TOTMAN FREDERIC LECLERCQ			
6月号	THE KOOKS	HUGH HARRIS LUKE PRITCHARD DAN LOGAN	7月号	ALL THAT REMAINS	OLI HERBERT MIKE MARTIN JEANNE SAGAN			
7月号	SAXON	PAUL QUINN DOUG SCARRATT NIBBS CARTER	8月号	KEZIAH JONES	KEZIAH JONES STEPHANE CASTRY			
8月号	ASIA	STEVE HOW JOHN WETTON	9月号	Mr.BIG	PAUL GILBERT BILLY SHEEHAN ERIC MARTIN PAT TORPEY			
11月号	ANTHRAX	SCOTT IAN, ROB CAGGIANO FRANK BELLO	10月号	THE DEREK TRUCKS BAND	DEREK TRUCKS TODO SMALLIE			
12月号	JUDAS PRIEST	GLENN TIPTON K.K.DOWNING IAN HILL	11月号	LEE RITENOUR GROUP	LEE RITENOUR ANNEKEI MELVIN DAVIS			
			12月号	JOE BONAMASSA	JOE BONAMASSA CARMINE ROJAS			

◆撮り下ろしザ・ギター◆

『THE GUITAR 11』の魅力は総集編
だけではありません。
この別冊のために撮り下ろした最新ネ
タも用意されています。

- ・BON JOVI
- ・PLACEBO
- ・ALICE IN CHAINS
- ・THE GET UP BOYS
- ・B.B.KING
- ・BUDDY GUY ETC

などの「ザ・ギター」も収録予定です
(上記は月刊『Player』への収録の可能
性もあります)。

※総集編リストは2010年3月1日現在。

※収録対象は08年1月号～10年7月号の予定です。

※このリストの中で一部収録されない

ギタリスト/アーティストもございます。ご了承下さい。

編集内容2 The History of ERIC CLAPTON's Guitars 50

この春、ジェフ・ベックとのジョイント・ツアーを行ない話題となっているエリック・クラプトン。
この特集では、クラプトンがデビュー当初から現在まで愛用してきた50本のギターを、美しいライブ・ピンナップとマニアックな解説
とで紹介。E.C.のギターストーリーが30数ページに渡り特集されます。

ブランド名	製品名(通称)	撮影年代	ブランド名	製品名(通称)	撮影年代
Martin	D-45	1970年	Gretsch		1964年
Martin	000-28	1977年	Roger Giffin		1985年
Martin	000-42	1998年	Fender	Telecaster Fiesta Red	1964年
Martin	000-28/45	1994年	Fender	Telecaster Body with Strato Neck	1969年
Martin	000-28EC9	2000年代	Fender	Telecaster 1952	1974年
Martin	000-28EC&HFBellezza	2006年	Fender	Telecaster	1975年
Martin	12 String	1995年	Fender	Stratocaster "Blackie"	1983年
Martin	12 String-B	2009年	Fender	Stratocaster "Brownie"	1981年
Guild		1968年	Fender	Stratocaster (LS PU) Pewter	1988年
National	Resonator	1994年	Fender	Stratocaster (LS PU) Red	1987年
Custom	Resonator Skull	1994o95年	Fender	Stratocaster (LS PU) White	1995年
UNKNOWN	Resonator	1999年	Fender	Stratocaster (LS PU) Gold Leaf	1997年
Juan Alvarez		1998年	Fender	Stratocaster (LS PU) Black	1999年
Gibson	Psychedelic SG	1967年	Fender	Stratocaster Graphitie#1	2003年
Gibson	Firebird	1969年	Fender	Stratocaster Graphitie#2	2003年
Gibson	Les Paul Sunburst	1967年	Fender	Stratocaster Graphitie#3	2004年
Gibson	Les Paul	1973年	Fender	Stratocaster Flip Flop	2003年
Gibson	Les Paul Custom	1969年	Fender	Stratocaster Black	2005年
Gibson	Les Paul Sunburst	1974年	Fender	Stratocaster Aged Arctic White Gold PU Cover	2007年
Gibson	Explorer, Tail Cut	1974年	Fender	Stratocaster Black for Slide	2008年
Gibson	Explorer/ARMS Concert	1983年	Fender	Stratocaster Dark Grey Metallic	2006年
Gibson	Chet Atkins	2003年	Fender	Stratocaster Crossroads Benefit	2007年
Gibson	Byrdland Sunburst	1995年	Fender	Stratocaster Daphne Blue	2010年
Gibson	Byrdland Natural	2009年	※上記リストは掲載予定です。変更の際はご容赦下さい。		
Gibson	L-5CE	2003年			
Gibson	ES-335 Cherry Red	1995年			
Gibson	ES-335 Sunburst	1995年			

《ページイメージ》



■ 編集内容3 Premium Guitar Collection

トータル約カラー80ページで、国内外を問わずプレミアム・ギター／ヴィンテージ・ギターを中心とするギター・コレクションを紹介します。

■ その1 LEOTARD SKYNYRD COLLECTION

レイナード・スキナードのコピーバンドであり、マニアックなギター・コレクターが3人も在籍するというコスプレ・バンド、レオタード・スキナード。

ヴィンテージ・ギターを中心に、ギブソン80本、フェンダー40本など、バンドで収集した膨大なギター・コレクションを全て公開。

大谷十夢治氏の写真と詳しい解説でトータル150本のギターを紹介します。



■ その2 OLIVER LEVER COLLECTION

世界的な音楽プロデューサー／作曲家／ギタリストとして、数々の音楽制作に携わっているオリヴァー・リヴァー。

彼は音楽家であると同時にギター・コレクターとしても広く知られています。この特集では、なんとヴィンテージ・ギターを含む130本の秘蔵コレクションの全てを紹介합니다。



■ その3 LEE DICKSON COLLECTION

30年に渡ってエリック・クラプトンのギター・テクニシャンを務めたリー・ディクソンのプライベート・ギター・コレクション。

ロンドン郊外の自宅を訊ね。クラプトンに関連するギターを含めた60本のギター・コレクションとロング・インタビューを紹介します。



■ その4 SUGIZO COLLECTION

LUNA SEA／X JAPANのギタリストであり、マルチ音楽プロデューサーとしても知られるSUGIZOのギター・コレクション。

彼がライブなどで使用するギターは『Player』2009年1月号で紹介して好評を博しましたが、今回はプライベートに所有しているヴィンテージ・ギターを中心にコレクションとインタビューを紹介します。



編集内容4 Made in Japan File

日本製のギターは、昔からコストパフォーマンス性に優れていることで知られています。また、近年はコストパフォーマンスという要素以上に、高いスキルによる製作や独自のアイデアを活かしたオリジナル・デザイン、また日本人ならではの優れた品質管理による製品作りは、海外でも高く評価されるようになりました。

しかし現在の国内市場を見ると、伝統的なアメリカ製プレミアム・ギターと驚くほど低価格なアジア製ギターの存在が目立ち、国産ギターの多くが苦境に立たされているようです。

海外で生産されている人気ブランドのギターはそれぞれ魅力的で、それらの製品が好調にセールスを伸ばすことは日本の楽器シーンや音楽シーンにとっても必要不可欠なことです。しかし、そんな昨今だからこそ、国産ギターの魅力を今一度ユーザーに訴える必要があるのではないのでしょうか？ クラフトマンのスキルや繊細な仕事ぶり、充実した設備や高性能な工作機械、特許やアイデアなどの知的所有権は長年の積み重ねによって初めて製品に活かされてきます。日本には半世紀を超えるギター製作の歴史があり、文化があります。我々日本人のために作られた日本製のギターの素晴らしさを今一度ユーザーにアピールし、ユーザーに体感して貰うことが望まれます。

自動車産業が、家電産業が、そして農業がそうであるように、日本製品の素晴らしさを再認識し、日本製ギターの魅力をアピールすることがこの特集「メイド・イン・ジャパン・ファイル」のテーマです。

一口に“日本製”といっても魅力のベクトルはモデルによって異なります。様々な製品をアラカルト的に紹介し、それを「メイド・イン・ジャパン」というひとつの括りの中で大きく採り上げることで、読者に日本製ギターの魅力を深く印象づけたいと考えます。

《ページ構成》

前作『THE GUITAR10』の「Premium Guitar File」とに近い体裁とする予定です。

- ◇ブランドごとに特定のモデルをチョイス
- ◇大谷十夢治氏によるギターのクローズアップ写真撮影
- ◇製品の詳細な解説というプロットを用います。

各製品ともに、美しさと詳しさを強調した「カラー見開き」ページで構成します。



《ご紹介予定ギター/例》

- ・IBANEZ J-CUSTOM
- ・FENDER JAPAN ST-57M-US
- ・ESP Potbelly
- ・HEADWAY/THE MOMOSE
- ・CREWS Jackson 5
- ・ZEMAITIS Pearl Front
- ・MORRIS SJ-112TH

And so on

※上記は参考例です。変更される可能性があります。

■ 編集内容5 Vintage Guitar Gallery(広告部企画)

ピンナップ・スタイルでヴィンテージ・ギターを紹介する特別企画を立案しました。

2002年頃からのヴィンテージ・ギターの価格の乱高下の影響などもあり、近年ユーザーはヴィンテージ・ギターに対して距離を置き、その動向を見守っている状況と言えます。

今回の「ヴィンテージ・ギター・ギャラリー」では、楽器店の店頭または秘蔵しているヴィンテージ・ギターを本誌の「ヴィンテージ・ファイル」コーナーの撮影で知られるフォトグラファー大谷十夢治氏が撮影し、美しいカラー・ピンナップとして紹介します。

日本の代表的なギター・ショップが所有するヴィンテージ・ギターの競演となりますので、日頃のお客様とのコミュニケーションの話題作りやショップとしてのステイタス作りのお役に立てる企画と言えるでしょう。

タイアップ条件も大変リーズナブルな設定です。お早めに担当の広告部員までお申し込み下さい。



■ピンナップ部分

カラー1ページを使用し、ヴィンテージ・ギター/ベースを1本紹介

《紹介内容》

- ・メイン写真(1点)
- ・部分写真(1~2点)
- ・モデル名 / 製作年

※「Vintage File」とは異なり、ギターに関するテキスト解説は予定していません。

※今回の企画では「70年代中期までに製作されたギター/ベース」が対象となります。

■ショップ紹介

企画の最終ページ(カラー1ページ)を全店数で、ワクとして分割し、ショップ紹介を行ないます。

《掲載内容》

- ・店名(ロゴ)
- ・住所 / 電話番号
- ・ホームページURL
- ・ショップのセールスポイント

など簡易な内容です。

■タイアップ条件

本企画へのご参加条件

別冊『THE GUITAR 11』に

◇純広告をモノクロ1ページ、またはカラー1/2ページ以上広告ご掲載の場合、ピンナップを無料掲載

◇純広告をモノクロ1/2以上ご掲載の場合、ピンナップを撮影費(3万円前後)で掲載

とさせていただきます。

※総合楽器店の場合、〇〇店(=紹介ギターのオーナー店)としてのご掲載、または(屋号の異なる)専門ショップとしてのご掲載とさせていただきます。

■撮影場所/日時

- ・東京 白金にある撮影スタジオ
- ・4月中旬予定

具体的な撮影スケジュールにつきましては、追ってご連絡させていただきます。

また、スペースオーダーの最終締切以前に撮影が行われますので、ご希望のギターショップ様はお早めに広告ご掲載の決定をお願いします。

編集内容6 THE PRESIDENTS

特別企画「THE PRESIDENTS」は、激動の世界経済の中で、ギター・ブランドは何を考え、どういう製品を生み出すのか、などという様々な事柄について、世界を代表するギター・ブランドの社長/CEOなど、企業のトップの方々に登場して語っていただくコーナーです。アカデミックな切り口で、世界のギター業界の方向性についてお話を伺います。

《予定インタビュー》

■Ernie Ball社	Sterling Ball氏
■Gibson社	Henry Juszkievicz氏
■Martin社	Chris Martin IV 氏
■Paul Reed Smith社	Paul Reed Smith氏

(一部、月刊『Player』の「The Planner」にて掲載したインタビューの再収録を含みます)

◆◇『THE GUITAR 11』の読者層と販売プラン◆◇

別冊『THE GUITAR』は、当社にとって月刊『Player』と並ぶ2つめのブランドです。

ご存知のように別冊『THE GUITAR』は、月刊『Player』のトリを担う人気コーナー「ザ・ギター」の総集編と撮り下ろしの最新記事を中心とした内容です。第1巻である『THE GUITAR (1)』は1979年に刊行され、以来、固定読者が多く保存性が高いのが特徴です。近年は、固定読者に加え、この別冊だけに収録する数々の特集を掲載する事で、若く、ハイエンドなギター・ユーザーの取り込みにも成功しています。

即時性あるインターネット時代にあって、より深い内容の情報は月間ベースの『Player』で掲載、さらに販売期間が長く、保存性のある媒体の『THE GUITAR』では、より体系的な情報を掲載するようにプランニングしています。

また、販売期間につきましては、月刊『Player』での自社広告を長期間投入するとともに、6月26日～27日に有明TFTホールで開催されます「Tokyo Guitar Show」の当社ブースでの販売や当社のサイトでのインターネットではキャンペーン付の販売促進を計画しています。

より深い、体系的な内容を、より知識欲があるユーザーに、より多く伝える媒体、それが『THE GUITAR 11』です。

『THE GUITAR 11』の広告ご掲載について

- 発売日：2010年6月21日(月)予定
- 予定ページ数：340ページ前後
- 予価：3,200円

- 体裁：判型/A4判(天地297×左右210mm) 平綴じ
- 編集：田中 稔

○広告お問い合わせ：

株式会社プレイヤー・コーポレーション 広告部
〒160-0023東京都新宿区西新宿7-22-38 興亜ビル
TEL/03-3363-6955

担当者

森廣 morihiro@player.co.jp

小林 kobayashi@player.co.jp

角田 kakuta@player.co.jp

《入稿方法と締切》

■広告スペースオーダー締切：4月28日(水)

■広告データ入稿締切：5月17日(月)

データはmac版イラストレータで制作されたもの(CS4可)。
必ず「キャンプ」(PDF可)と「データ仕様書」を添付して下さい。
入稿はMO/CD-Rの他、(宅ファイル便など)サーバー経由の
メール入稿も可能です。

■広告フィルム入稿締切：6月4日(金)

カラー/モノクロともにポジフィルム、幕面「下」にて出力して下さい。

カラーの場合、線数は175線相当、カラーキャンプ必須。

モノクロの場合、線数は133線相当となっています。

広告掲載サイズ	寸法	定価
■表2+表2 対向	天地297mm×左右420mm	定価 1,470,000 円 (税込/税別 1,400,000円)
■表3(見開き)	天地297mm×左右420mm	定価 1,150,000 円 (税込/税別 1,100,000円)
■カラー×1ページ	天地297mm×左右210mm	定価 472,500円 (税込/税別 450,000円)
■カラー×1/2ページ	天地130mm×左右180mm	定価 252,000円 (税込/税別 240,000円)
■モノクロ×1ページ	天地297mm×左右210mm	定価 252,000円 (税込/税別 240,000円)
■モノクロ×1/2ページ	天地130mm×左右180mm	定価 147,000円 (税込/税別 140,000円)